

## 第7回古賀市基本構想審議会 議事要旨

### 【開催概要】

開催日時：令和3年6月24日（木）19：00～20：50

開催場所：リーバспラザこが交流館多目的ホール

出席者：

（委員）南会長、稲永副会長、豊貞委員、山田委員、渡邊委員、木下委員、芝尾委員、清水委員、高原委員、玉谷委員、中西委員、藤井委員、三輪委員、安武委員、吉田委員、石原委員、荻原委員、木村委員、崎村委員、柴田委員、谷口委員、内藤委員、原田委員、三戸委員、宮基委員

（古賀市）田辺市長、横田副市長、総務部長、市民部長、保健福祉部長、建設産業部長、教育部長、総務課長、まちづくり推進課長、人事秘書課長、財政課長、デジタル推進課長、管財課長

（事務局）経営戦略課長、経営戦略係長、経営戦略係員

### 【議事・要旨】

1. 開会	
2. 会長あいさつ	
3. 議事	<委員からの質問、意見>
(1) 第5回審議会までの意見等への対応	○都市イメージ・基本目標について (1)基本目標の「基本構想の推進」の指針に「みんなが主役」と記載があるが、現状ではみんなが主役とは言えないのではないかと。 →（回答）めざすべき状態として「みんなが主役」を指針として示している。
(2) 序論・基本構想案について（コミュニティ活動・行政経営分野）	
(3) 都市イメージ・基本目標について	(2)4つの基本目標に優先度や順序性があればご教示いただきたい。 →（回答）政策体系の並びと同じであり、優先順位はない。人に関することを最初に、子どもから始まって大人、高齢者、全体を網羅する地域福祉という並びになっている。次に産業経済、都市基盤、環境などまちに関するものを並べている。
(4) まちづくりの方向性について	
(5) 基本構想案について	(3)すべての人とみんな、まちと地域という言葉があるが言葉によって意味合いが違うのか、語義を明確化した方がよいのではないかと。 →（回答）地域はある程度限られたエリア、まちは市全体のイメージ。すべての人とみんな、誰もが、はそれほど違いがなく、語感を優先している。
	(4)都市イメージに「みんなが育つ 未来に向かって育ち続けるまち」とあるが、地球温暖化や高齢化等、社会情勢が劇的に変動している中、育つという時間的な余裕がないのではないかと、臨む・チャレンジ・挑戦という言葉を入れてほしい。 →（回答）育つには成長するという意味だけではなく、10年先までずっと続いているというイメージを持っている。チャレンジという姿勢については毎年度未来に向かって挑戦していくということから、アクションプラン、予算案の中で実践していきたい。

(5)都市イメージの「こが育つ」は助詞がないが、古賀、子が、個が、など何かをかけているのか、何かかけているのなら説明が必要ではないか。

→ (回答) ひととまちという表現は他の自治体でも当てはまるが、「こが」と入れることで古賀らしさが出てくる。これまでの審議会の議論の積み上げで得られたまちの理念により、古賀市の特性、めざすべきものをいろいろ想起される表現としている。

(6)基本目標の中で「安心して暮らせるまち」が重複している。安心して暮らせるというイメージは大切だと思うが、何個もあるとぼやけてくるようなイメージがある。

→ (回答) 人の健康が担保されて安心して暮らせる、安全な都市基盤で安心して暮らせるという意味合いで別のイメージを表現している。

○まちづくりの方向性について

(1)住みよさ指標について、半分は「どちらかといえば住みやすい」という意見であり曖昧であるため、「住みやすい」という回答に絞った方がよいのではないか。

→ (回答) 市としてこれまで様々なアンケート調査を実施してきており、「どちらかといえば」という項目を「どちらかというといよい」という判断で整理をしてきた経緯があり、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を足した値を案として設定している。

(2)まちづくりの方向性について、土地利用構想という表現は古いイメージがある。序論の第2章には **Society5.0** と記載があり、現実空間と仮想空間の融合に触れられている。ここには IT 系の基盤も含まれており、土地ベースの話だけではないので、土地利用構想という表現はいかがかと思う。

→ (回答) 序論の第4章、市の重要政策課題の中で、社会経済状況の変化への対応を示している。テクノロジーの発展についても記載しているが、現時点では決まった方向性を示すことが難しいため、土地利用は従来型の表現をしている。アクションプランの中で社会の急激な変化に柔軟に展開していくこととしている。

(3)土地利用構想について、**JR** 古賀駅周辺地区から市全体が元気になるよう波及させていくイメージがあるが、市内で地域格差が広がることを懸念する。公共交通や ICT の情報活用等、取組や思いを追加した方がよいのではないか。

→ (回答) **JR** 古賀駅周辺地区の効果が全体に波及するようということと特定の地域だけではなく、全体的に均衡ある発展をめざしているという方向性を表現している。公共交通や ICT などネットワークの整備等も非常に重要な視点。コンパクトプラスネットワークという考えを持っているのでご意見を踏まえ記述を検討したい。

○序論について

(1)第2章の策定の背景、**Society5.0** は市民権を得た言葉なのか。**Society5.0** をタイトルとして使うべきかどうか検討すべきではないか。

→ (回答) **Society5.0** は日本語で適切な説明が難しいが、私たちが置かれている現状

	<p>を記載している。状況を踏まえ、P 1 4 の 3 に社会経済情勢への対応としてあげている。こういう世の中の状況に対応しなければいけないとの趣旨で書いている。</p> <p>○基本構想案について</p> <p>(1)「5 私たちにできる地球温暖化の防止」について、修正を加えたことで分かりにくくなっているのを、家庭部門と事業部門の温室効果ガスの削減について再度整理が必要ではないか。</p> <p>→ (回答) 文章の表現を見直す。</p> <p>(2)MaaS はわかりにくいので表現を見直してはどうか。</p> <p>→ (回答) 分かりやすい表現を検討する。</p> <p>(3)人事のあり方や人材力の向上についてしっかりと記載すべきではないか。</p> <p>→ (回答) 人材育成について繰り返しご指摘を頂いているので表現は持ち帰って再度検討したい。</p> <p>(4)住民へのアンケート調査について指標を設定する上で必要ではないか。</p> <p>→ (回答) アンケート調査は個別計画等で実施している。今後充実させながら取り組んでいきたい。</p> <p>(5)政策 5 - 1 「基本構想の推進」施策 1 「みんなでつながる地域づくりの推進」の中で自治会や校区を単位とする地域コミュニティ活動を支援と記載があるが現状を把握した上での記述なのか。</p> <p>→ (回答) 自治会と校区コミュニティの 2 つの大きな柱でまちづくりを進めている。現在 8 校区のうち 6 校区に校区コミュニティがあり、課題等意見をもらっている。今後、自治会と校区コミュニティについて考え方を整理した上で支援を進めたい。</p> <p>○その他について</p> <p>(1)アクションプランに市民の意見を盛り込む必要があるのではないかと。また、議会の議決を受けないのはなぜか。</p> <p>→ (回答) アクションプランは全部の政策、施策分野を網羅したもの。それぞれの政策、施策には個別計画があり、その中で市民参画の手法を取りながら計画策定に取り組んでいる。アクションプランは当初予算案と連動しており、当初予算案を提示する際に同時に参考資料として提示する。議会の議決権の範囲内で審議されると考えている。</p>
4. その他	
5. 閉会	事務局：次回の審議会の日程及び説明